

スモン患者におけるCOVID-19 感染拡大の影響 – 第2回調査 –

野田成哉^{1)2)†} 勝野雅央²⁾ 南山 誠¹⁾ 久留 聡¹⁾

IRYO Vol. 77 No. 6 (429–434) 2023

要旨

スモン (Subacute myelo-optico-neuropathy ; SMON) 患者におけるCOVID-19 (coronavirus disease 2019) 感染拡大の影響についてアンケート調査を行った。2022年6月に、全国の938人のスモン患者にアンケート用紙を送付した。2022年7月から8月の間に445人 (回収率47.4%) のスモン患者から返送があり、解析を行った。445人 (男性121人, 女性324人) の平均年齢は 83.6 ± 7.7 歳で、65歳未満は3人であった。感染拡大の影響により、27.2%がスモン検診方法に変化ありと回答した。COVID-19に感染したスモン患者は12人 (2.7%) であった。また、COVID-19感染拡大の影響あったと回答したスモン患者の割合は、診療18.9%, 在宅サービス8.5%, 日常生活40.9%, 何らかの支援10.1%, 健康状態の変化36.2%であった。その例として、診療制限, 面会制限, 痛み悪化, 感覚障害悪化などがあった。COVID-19ワクチンは、89.0%が1回以上接種しており、82.7%で3回以上接種していた。本調査の結果、スモン患者はCOVID-19感染拡大の影響を強く受けていると考えられた。

キーワード スモン, COVID-19, アンケート, 検診, COVID-19ワクチン

はじめに

スモン (Subacute myelo-optico-neuropathy ; SMON) は、1950–60年代にかけて、日本で多発した神経疾患である。腹部症状が先行し、下肢の痙性麻痺, 異常知覚, 感覚障害をきたし、視力障害をともなう。原因が整腸剤キノホルムであることが判明した1970年以降、新規発生はない¹⁾。その後、スモン患者による国と製薬会社を相手にした訴訟がおこ

り、恒久対策として、原因追及と治療法開発, 検診等で予後追跡と健康管理を行うことになった。検診事業は「スモンに関する調査研究班」で行われている¹⁾。全国の患者は1970年に約11,000人であったが、徐々に減少し、2002年で約3,000人, 2020年で約1,000人となっている¹⁾²⁾。

2019年末から、COVID-19 (coronavirus disease 2019) 感染が拡大し、世の中の生活が大きく変化した³⁾。高齢者や基礎疾患のある患者は、感染により

1) 国立病院機構鈴鹿病院 脳神経内科 2) 名古屋大学 神経内科学 †医師
著者連絡先: 野田成哉 国立病院機構鈴鹿病院 脳神経内科 第二脳神経内科医長
〒513-8501 三重県鈴鹿市加佐登3-2-1
e-mail : seiya.noda.0903@qc.commufa.jp
(2023年4月7日受付 2023年8月4日受理)

A Second Survey on the Impact of the Coronavirus Disease 2019 Pandemic on Patients with Subacute Myelo-optico-neuropathy

Seiya Noda¹⁾²⁾, Masahisa Katsuno²⁾, Makoto Minamiyama¹⁾ and Satoshi Kuru¹⁾

1) Department of Neurology, NHO Suzuka Hospital, Japan

2) Department of Neurology, Nagoya University Graduate School of Medicine, Japan

(Received Apr. 7, 2023, Accepted Aug. 4, 2023)

Key words : SMON, COVID-19, questionnaire, check-up, COVID-19 vaccine

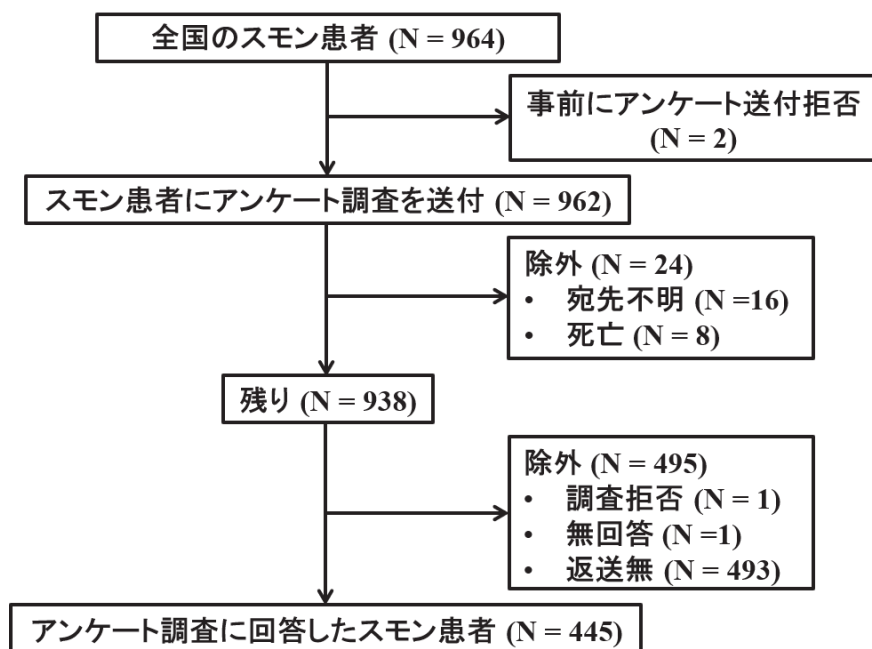


図1 アンケート調査のフローチャート

重篤化することが報告された⁴⁾。2020年9-10月に、われわれはCOVID-19感染拡大がスモン患者の療養生活に及ぼす影響について第1回アンケート調査を行い、外出、面会制限等により、身体および精神症状に影響があることを報告した²⁾。その後、感染はさらに拡大したが、一方でCOVID-19ワクチン接種が普及した⁵⁾。われわれはスモン患者向けに冊子を配布し、感染対策を施した⁶⁾。今回スモン患者におけるCOVID-19感染拡大の影響について、第2回アンケート調査を行った。

方 法

2022年6月に、全国938人のスモン患者にアンケート用紙を送付した。同年7-8月に445人(回収率47.4%)の患者から返送があり、解析を行った(図1)。調査内容を表1に示した。また、第1回と第2回調査結果の比較検討を行い、統計解析は、2標本t検定、カイ二乗検定を用い、 $P < 0.05$ で有意差ありとした。質問項目ごとに自由記載欄を設けた。本研究は、国立病院機構鈴鹿病院倫理委員会の承認を得た(承認番号2022-01)。

結 果

スモン患者445人(男:女=121:324)の平均年齢は 83.6 ± 7.7 歳(56-101歳)であり、65歳未満は3

人であった。地域ごとのアンケート回収率、運動機能、居住地を図2に示した。

1. スモン検診・研究班への要望

スモン検診の結果を図3A, 3Bに示した。検診状況は、「毎年受診」が49.2%で、「受けてない」が15.5%であった。感染拡大の影響により、27.2%が「検診方法に変化あり」と回答した(対面→電話40人、検診がなかった14人等)。COVID-19感染拡大状況下での患者の研究班への要望は、医療的アドバイスが29.7%と最も多く、次にリハビリ指導が15.1%であった。

2. COVID-19感染拡大の影響

COVID-19に感染したスモン患者は12人(2.7%)であった(図3C)。家族や介護者が感染した患者は31人(7.0%)であった。COVID-19感染拡大の影響あったと回答した患者は、診療18.9%(診療制限35人、面会制限29人等)、在宅サービス8.5%(デイケア制限8人、訪問診療制限5人等)、日常生活40.9%(外出制限69人、運動不足17人等)、何らかの支援10.1%(補助金6人、マスク3人等)、健康状態の変化36.2%(痛み悪化20人、感覚障害悪化14人等)であった(図3D)。

3. COVID-19ワクチン

COVID-19ワクチンは、82.7%が3回以上接種し

表1 アンケート調査内容

患者の状態	年齢 性別 運動機能（支え無しで歩行可能，支持あれば歩行可能，座位保持可能だが歩行不能 座位保持不能） 生活形態（自宅，施設，病院） 居住地（北海道，東北，関東・甲信越，東海・北陸，近畿，中国・四国 九州）
スモン検診	スモン検診状況（毎年，2-3年に1回，今までに数回受診，検診は受けていない） COVID-19による検診方法の変化（あり，なし）
COVID-19対策に関して研究班への要望	医療的アドバイス，リハビリ指導，心理相談，福祉相談
COVID-19感染拡大の影響	COVID-19感染（自分や周囲の人を含め感染者はいない，周囲の人が感染した，自分が感染した） 診療に影響（あり，なし） 在宅サービスに影響（あり，なし） 日常生活に影響（あり，なし） 何らかの支援（あり，なし） 健康状態の変化（あり，なし）
COVID-19ワクチン	COVID-19ワクチン接種回数（受けていない，1回，2回，3回，4回，受けてない） 副反応の有無（あり，なし）
COVID-19対策の冊子について	役に立った，役に立たなかった，未読

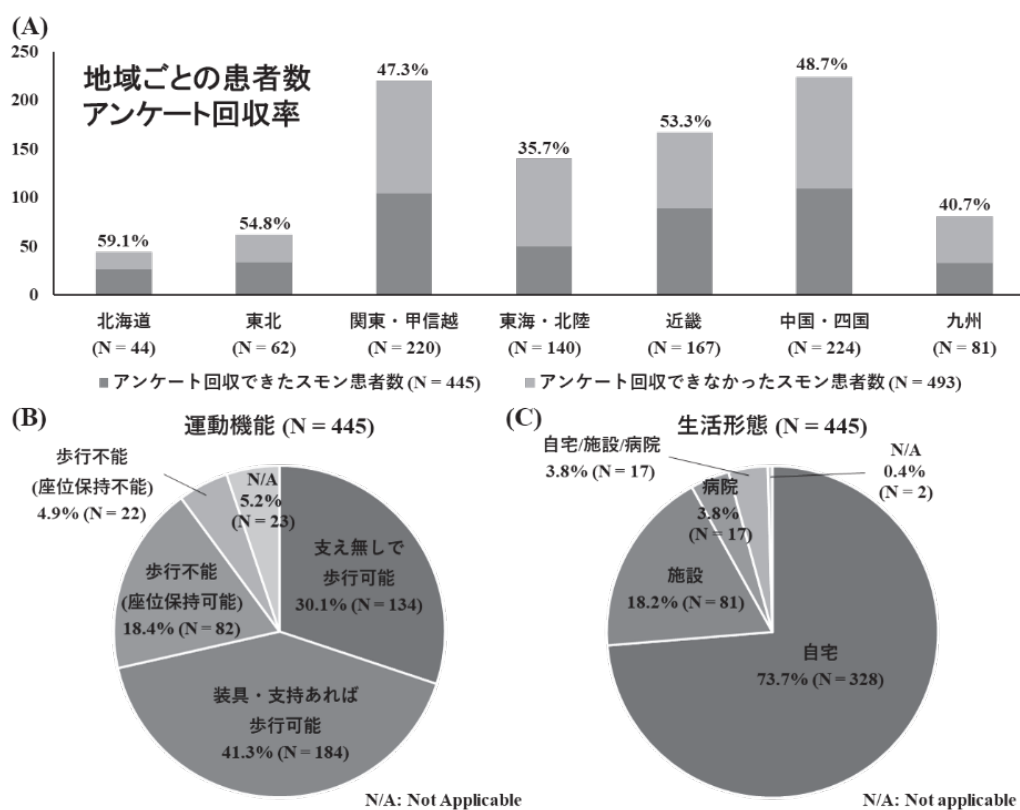


図2 (A) 地域ごとの患者数とアンケート回収率 (B) 運動機能 (C) 生活形態

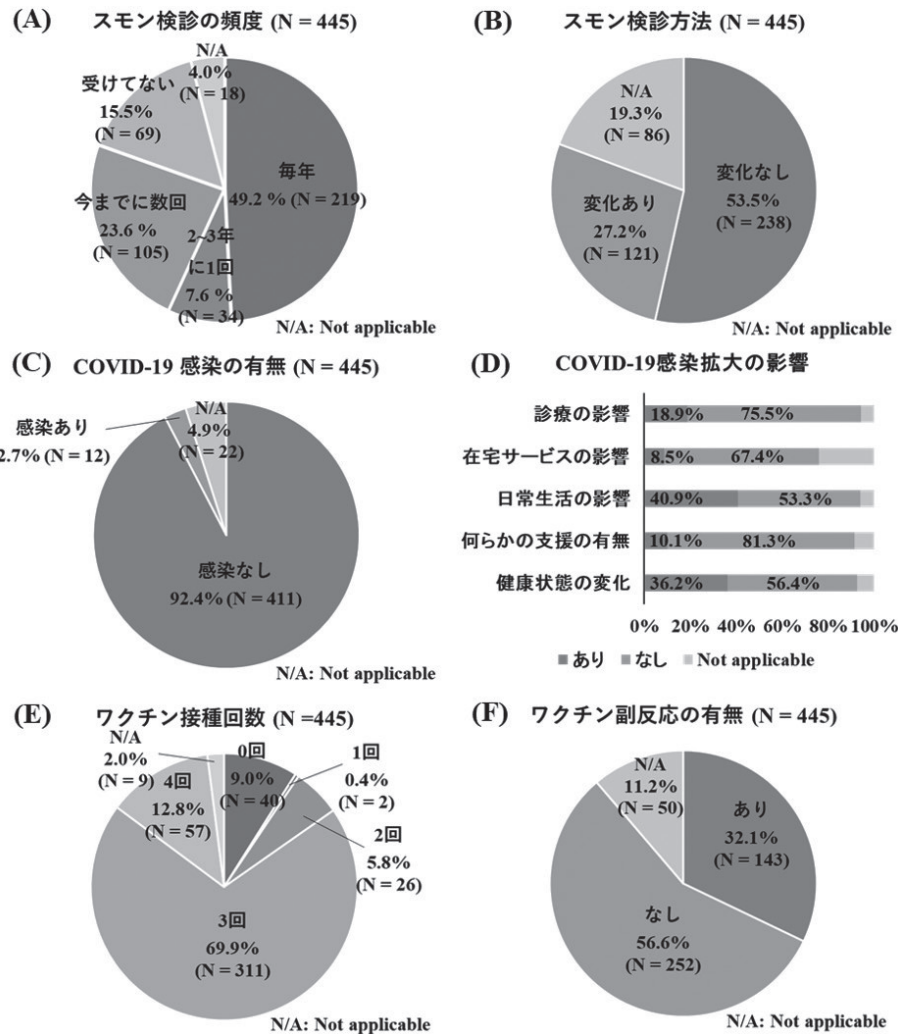


図3 (A) スモン検診の頻度 (B) スモン検診方法 (C) COVID-19 感染の有無 (D) COVID-19 感染拡大の影響 (E) ワクチン接種回数 (F) ワクチンの副反応

ていた (図3 E)。接種が2回以下の患者68人中21人は「副反応」が理由で、10人は「ワクチンは薬害/信用できない」が理由であった。副反応は、あり32.1% (接種部位の痛み73人、発熱61人等)、なし56.6%であった (図3 F)。

4. COVID-19感染対策の冊子

スモン患者向けのCOVID-19感染対策の冊子について、「役に立った」49.2%、「役に立たなかった」7.4%、未読30.8%であった。31人 (7.0%) は視力障害で「未読」であった。

考 察

COVID-19感染拡大は、高齢者や慢性神経疾患の患者に大きな影響を与えている²⁾⁴⁾。スモン患者は、現在でも麻痺、感覚障害、疼痛等の後遺症に悩ま

れている。感染拡大による診療、鍼灸^{しんきゅう}制限で、症状が悪化したと感じた患者が複数いた。コロナ禍であっても感染対策を講じた上での治療継続が必須であることを示している。

スモン検診は、毎年実施され、その結果は国策や患者管理に役立てられる⁷⁾。対面での検診が、感染拡大により、オンラインや電話診察に変わった地域もあった。また「対面でなければ検診は受けない」との回答もあった。オンライン診察は、現状では実施困難な場合があり、今後ICTインフラ整備や補助者の確保などの対策を練る必要がある。

COVID-19感染拡大がスモン患者の療養生活に及ぼす影響について、今回の調査と前回は比較した (表2)。前回と比較して、高齢化が進み、アンケート回収率は悪化した。感染拡大による影響があったと回答した割合は減少しておらず、引き続きスモン患者は感染拡大の影響を強く受けていると考えられ

表2 第1回調査と第2回調査の比較

	第1回調査 (N=552) 2020年9月-10月	第2回調査 (N=445) 2022年7月-8月	P値
男：女	131：421	121：324	0.21
年齢（歳）	82.1±8.5	83.6±7.7	<0.005
アンケート回収率（%）	53.2	47.4	<0.05
支え無しで歩行可能（%）	31.9	30.1	0.55
COVID-19に感染（%）	0	2.7	<0.0005
診療に影響あり（%）	22.1	18.9	0.21
在宅サービスに影響あり（%）	7.9	8.5	0.75
日常生活に影響あり（%）	43.5	40.9	0.41
何らかの支援あり（%）	12.9	10.1	0.18
健康状態の変化あり（%）	35.0	36.2	0.69

た。

今回の調査は2022年7月-8月に行い、COVID-19に感染したスモン患者は12人（2.7%）であった。国内感染者の累計は、2022年6月末で約900万人（7.2%）、8月末で約1,900万人（15.2%）であることを考慮すると⁸⁾、スモン患者が感染した割合は少ない。高齢者や基礎疾患のある患者は、重症化しやすく、患者一人一人が、感染予防を心がけたことが奏功した可能性がある。

スモン患者の442人（99.3%）が65歳以上の高齢者であり、そのうち366人（82.8%）が3回以上ワクチンを接種していた。国内で3回以上接種した65歳以上の人は、2022年6月末で89.9%、8月末で90.5%であることを考慮すると⁹⁾、スモン患者の接種率は低かった。キノホルムの薬害の経験から、複数の患者がワクチン接種により新たな薬害を生じかねないと考えており、患者にワクチンの十分な説明が必要である。

今回の調査は、国内のCOVID-19感染はデルタ株からオミクロン株に変わった第7波の時期と重なり、ワクチンの4回目の接種が開始された時期であった。そのため、感染したスモン患者や接種率が短期間で変化している可能性がある。また、患者が感染により重症化したか否かについては不明であった。

今回の調査で、前回調査同様、スモン患者はCOVID-19感染拡大の影響を大きく受けていることがわかった。スモン患者は高齢かつ基礎疾患を有する感染弱者であり、COVID-19の関心が高く、その対策を研究班に求めている。第1回アンケート調査結果後、患者にCOVID-19感染対策の冊子を作成・

配布し、多くのスモン患者に役立てられた。しかし、視力障害の患者には不十分であることが判明したため、現在音声データを研究班のホームページ（HP）にアップロードしている。今後、国は重症化リスクのある者を守ることに重点を置いて、感染拡大防止と社会経済活動の両立を図る方針としている。研究班としてはスモン患者の特性を考慮し、感染に注意を払いつつ、QOLを維持できるように検診、小冊子、HPを通じた指導を継続する考えである。

利益相反自己申告：申告すべきものなし

【文献】

- 1) 小長谷正明. スモン キノホルム薬害と現状. Brain Nerve 2015 ; 67 : 49-62.
- 2) 久留聡. 新型コロナウイルス感染拡大がスモン患者の療養生活に及ぼす影響. 医療2021 ; 75 : 457-63.
- 3) Güner R, Hasanoğlu I, Aktaş F. COVID-19: prevention and control measures in community. Turk J Med Sci 2020 ; 50 : 571-7.
- 4) Lamberghini F, Testai FD. COVID-2019 fundamentals. J Am Dent Assoc 2021 ; 152 : 354-63.
- 5) Jeong J, Choi HS. Sudden sensorineural hearing loss after COVID-19 vaccination. Int J Infect Dis 2021 ; 113 : 341-3.
- 6) 久留聡. スモン患者さんのための新型コロナウイルス対策. 厚生労働行政推進調査事業費補助金（難治性疾患政策研究事業）スモンに関する調査研究班, 2021.

- 7) 久留聡. スモン原因解明から50年. 臨神経 2021 ; 61 : 109-14.
- 8) WHO COVID-19 dashboard. <https://covid19.who.int>. (accessed on 30 June, and 31 August 2022).
- 9) 首相官邸. 新型コロナワクチンについて. <https://www.kantei.go.jp/jp/headline/kansensho/vaccine.html>. (accessed on 30 June, and 31 August 2022).
-

A Second Survey on the Impact of the Coronavirus Disease 2019 Pandemic on Patients with Subacute Myelo – optico – neuropathy

Seiya Noda, Masahisa Katsuno, Makoto Minamiyama and Satoshi Kuru

Abstract

We investigated the impact of the coronavirus disease 2019 (COVID-19) pandemic on patients with subacute myelo-optico-neuropathy (SMON). On June 2022, we sent questionnaires to 938 patients with SMON nationwide. We received 445 (47.4%) responses from July to August 2022 and analyzed the answers in the questionnaires. The mean age of the 445 patients (121 men, 324 women) was 83.6 ± 7.7 years ; three patients were under the age of 65 years. The proportion of patients who answered that the methods of check-ups changed was 27.2% due to the COVID-19 pandemic. In total, 12 (2.7%) patients were infected with COVID-19. The percentage of respondents who answered that the COVID-19 pandemic impacted medical treatment, services received at home, daily life, support received, and health status was 18.9%, 8.5%, 40.9%, 10.1%, and 36.2%, respectively. Examples of the impact of the COVID-19 pandemic include medical restrictions, visitation restrictions, and worsening of pain and sensory disturbance. In total, 89.0% of patients received at least the first vaccination for COVID-19, and 82.7% of patients received the third or fourth vaccination. This survey revealed that patients with SMON were greatly affected by the COVID-19 pandemic.